

一般社団法人日本サンゴ礁学会  
2017/18 年度 第 2 回理事会 議事録

日時： 2017 年 11 月 22 日水曜日 13 時－14 時  
会場： 東京工業大学大岡山西 8 号館 W311 室  
理事出席者： 日高道雄，山城秀之，梅澤有，灘岡和夫，山野博哉，茅根創  
監事出席者： 鹿熊信一郎，野中正法  
事務局出席者： 久保田賢

【審議事項】

(1) 細則等について

1) 定款細則について（資料 1）

日高会長より，定款細則案が提示され，議論の結果以下のように対応することとなった。

○様式の統一について

- ・各条にカッコ付の題があるものとないものがあるので統一する

○第 5 条 3 項：「学識経験者」について

- ・「学識経験者」とすると，保全活動の従事者などが該当しないと思われるので，「有識者」とする

○第 6 条：業務執行理事の記載純について

- ・定款に記載されている，学会誌編集，広報・社会連携，学会戦略・国際連携，サンゴ礁保全・調査安全，庶務・会計の順に変更する

○第 7 条：各委員会について

- ・細則に各委員会の設置や規定を記載せず，別に委員会規定を作成する
- ・すでにたたき台がある編集委員会だけでなく，他の委員会についても必要に応じて作成する

2) 役員・代議員選任規則について（資料 2）

茅根理事より，藤村会員に選挙管理委員長の就任を依頼し，承諾されたことが報告された。また，役員・代議員選任規則案が提示され，概ね了承された。今後は，詳細を詰め，メールで代議員の意見を聞くこととなった。

### 3) 賞細則の改正検討について

深見会員へ委員長の就任依頼をし、承諾されたことが報告された。今後は、庶務・会計担当理事と新及び前賞委員長を中心に検討することとなった。

### 4) 大会運営の基礎的ルール（大会運営細則）について

第20回大会実行委員の中村隆志会員および第21回大会実行委員長の中村崇会員へ委員長の就任依頼をし、承諾されたことが報告された。今後は、庶務・会計担当理事、事務局と両委員を中心に検討することとなった。

## (2) 日本サンゴ礁学会誌法人化紹介セクションの構成について

2018年に発行予定の和文誌に掲載する特集記事として、以下の構成が提案され、了承された。

### Part 1

1. 法人化の意義と経緯（鈴木前会長）
2. 法人化に伴う主な変更点の紹介（日高）
3. 新しい運営体制（事務局：茅根・久保田）
4. 学会の方向性：抱負のようなもの
  - 1) 学会誌（山城）
  - 2) 広報・社会連携（梅澤）
  - 3) 学会戦略・国際連携（灘岡）
  - 4) サンゴ礁保全・調査安全（山野）

### Part 2：投稿を呼びかける（何名かには投稿依頼）

1. 学会に望むこと：これまでの学会を振り返って（シニア）
2. 学会の将来像：若手研究者の描く将来像と要望（若手）

Part 3: 定款および細則（定款や細則については HP に掲載するので、特集セクションに掲載する必要はないという結論だったと思います。）

\*第10巻の特集セクション「日本のサンゴ礁研究の歩みと展望—日本サンゴ礁学会設立10周年を記念して—」を参考に

## (3) 法人化セレモニーの準備について

11月25日に開催予定の本行事の最終確認を行なった。第19回大会で功労賞を受

賞された保坂氏が逝去されたことから、セレモニーの初めに黙祷をささげることが確認された。当初は参加者へ来賓の紹介のみを予定していたが、理事についても会長が指名と担当を読み上げる形で紹介することとなった。大会実行委員会の方で、賞状の作成が間に合うようなら、口頭発表賞およびポスター賞の表彰式も同時に行なうこととなった。賞委員会の所掌業務については、事務局を中心に準備する報告で検討されていたが、これら2つの賞については、次回以降も大会実行委員会が作成を担当することとなった。

(4) 学会誌等在庫の一部廃棄について (資料3)

学会誌 (英文・和文) については5部、ニュースレターについては10部、会員名簿については20部を残して廃棄することが提案され、了承された。一方、残部数が0冊という巻号については、保存用として事務局に備えておくため、会員に提供を呼び掛けることとなった。

(5) その他

なし

**【報告事項】**

(1) 学会として申請する助成金について (資料4)

今後の助成金への申請の際の参考資料として、経団連自然保護基金と笹川平和財団助成事業の申請書が提示された。

,

(2) その他

なし